

【事例 15】 香りの講演会

実施年度	平成12年度～	連携・協働形態	その他														
事業内容	香りのまちづくり事業の普及啓発を目的に平成12年度より毎年1回「香りの講演会」を実施している。																
		12年度	13年度	14年度	15年度												
	実施場所	古河市福祉の森会館 視聴覚室															
	対象者	古河市民															
	内容	香りがひと・環境に及ぼす影響について (100名参加)	ハーブのある暮らし～ハーブ栽培とその利用 (90名参加)	花と緑をとおして楽しく・美しく・元気なまちを (90名参加)	健康を支える香りのパワー (90名参加)												
連携・協働の範囲	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>計画</td> <td>実施</td> <td>実施後の評価</td> </tr> <tr> <td>行政</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NPO</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						計画	実施	実施後の評価	行政				NPO			
	計画	実施	実施後の評価														
行政																	
NPO																	

〈行政〉

市町村名	古河市	担当課	地球環境課	電話	0280-22-5111
------	-----	-----	-------	----	--------------

連携・協働事業を行ったきっかけ (発意者:行政)

地域住民が主体となったまちづくり施策を展開していくために、地域住民、NPO、行政が協働で行う。また、行政の支援体制は、財政事情を最小限にし、住民と行政の信頼関係をより深め、手作りのまちづくりを展開している。

役割分担

NPO側： 手づくりポスター作成、市民への周知(まちネットニュース)、当日の司会進行、会場設営等を実施している。

行政側： 行政、NPO、市民団体と協働で企画、運営し、常に協議を重ねた上実施している。行政は、広報誌によるPR、講師依頼、講演会場の借り上げ、講師謝礼、会場設営等を実施している。

連携・協働によるメリット等(事業成果)

協働で実施することで、お互いの立場が理解でき、経費をかけない手づくりの講演会を開催することができた。

行政主体ではなく、NPOとの協働ということで幅広い集客を得ることができた。

連携・協働する上で配慮した点

行政主体にならないように、始めの段階から打ち合わせを重ねることで、行政でできるもの、NPOでできるものと担当分野を配分して実施してきた。

課題と対応

今年度で4回目をむかえるが、事業実施については更なる協議を重ね、行政主体とならないように実施したい。

連携・協働の今後の展望

この事業を継続させるためにも、NPOとの協議で推進していきたい。また、市民団体も加わっていることから、市民主体の手づくり講演会を開催することで、香りのまちづくり事業が広く市民に定着するよう推進したい。

(NPO)

団体名	NPO法人 まちづくりネットワーク	電話	0280 47 0033
住所	〒306 0041 古河市鴻巣 758		

連携・協働事業を行ったきっかけ (発意者:行政)

この事業は古河市がまちづくり事業の一環として行っており、当NPO法人の活動分野の一つである「まちづくりの推進」に直接関連するものであり、行政・市民団体・NPOの3者協働はネットワークづくりに極めて有意義であること。

連携・協働によるメリット等(事業成果)

行政・市民・NPOの相互理解とネットワークづくりができたこと。

連携・協働する上で配慮した点

- 1 3者の役割分担を尊重すること。
- 2 継続事業とするために、事業を多面的な視点で捉えて、講演会の年度別の内容に特徴点を持たせること。
- 3 講師選定にあたっては、公的組織・企業・大学研究期間・市民活動家等の分野別で活躍している人を基準とすること。(多面的に見るために)

課題と対応

事業費の捻出と高次元な内容をわかりやすく、生活の中で行かされる内容の講演会にすること。

連携・協働の今後の展望

協働の文字通り、一つの事業を同質的に分担することを避けて、役割分担で協働者の得意とする機能を充分生かせる内容にして、一人でも多い参加者の下で事業を発展的に継続させること。